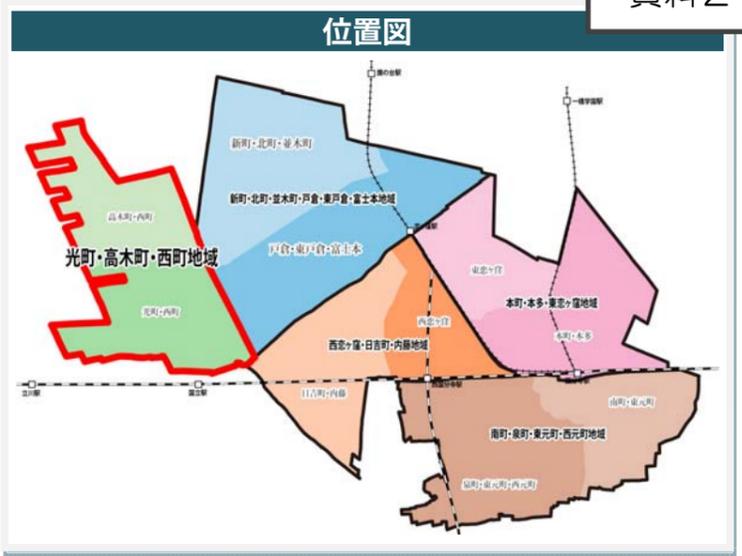


地域

光町・高木町・西町

<地域の概要>

- 本地域は、国立駅の北側に位置する市西部の地域です。
- 地域内の多くは低層戸建て住宅が分布する住宅地となっており、地域北部は農地が多くなっています。
- 地域の南側には国立駅が位置しており、周辺には商業施設等も立地しています。



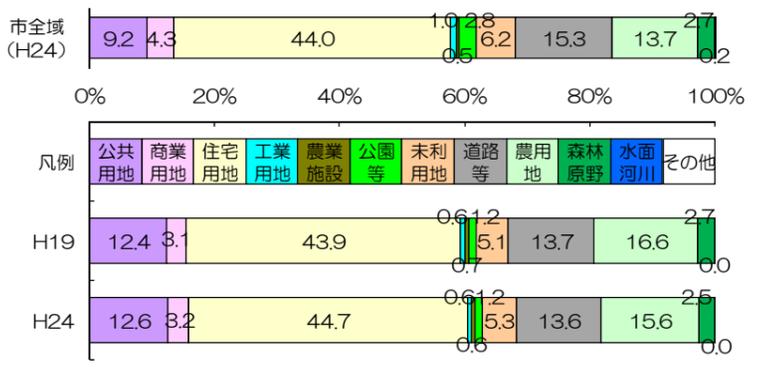
1. 地域の特徴

基礎情報				
		地域		
		市全域	市全域に対する割合	
面積	(ha)	1,148	205	17.9%
市全体人口	(人)	111,121	114,936	118,035
人口	(人)	17,860	18,119	18,547
人口密度	(人/km ²)	8,712	8,839	9,047
人口割合	(%)	16.1	15.8	15.7
世帯数	(世帯)	7,494	7,747	8,123
世帯人員	(人/世帯)	2.4	2.3	2.3

資料：住民基本台帳（各年1月現在）

土地利用

- 本地域の土地利用は、住宅用地が4割超となっており、市全体の平均と同程度の割合となっています。
- 農用地（農地・採草放牧地）は、市全体と比べて多くなっています。一方で、公園等は、市全体と比べて少なくなっています。
- 近年では住宅用地が増加傾向にあり、農用地が減少傾向にあります。



資料：土地利用現況調査

道路・交通基盤

- 地域内道路の約7割が幅員6m未満となっており、狭い道路が多いです。
- 幹線道路（都市計画道路）の整備は進んでおらず、歩行者や自転車が安全に通行できる空間が少ないです。

緑・景観形成

- 本市の特徴的な自然資源である国分寺崖線が地域内を縦断しています。
- 地域北部には、農地がまとまって分布しています。
- 地域内に位置する鉄道総合技術研究所内の敷地内は緑が豊かな空間となっています。

安全・安心のまちづくり

- 地区内の市立小・中学校を地区防災センターに位置付けています。
- 地区内は戸建て住宅が多くなっており、一部には、木造建築物の割合が高い地区も見られます。

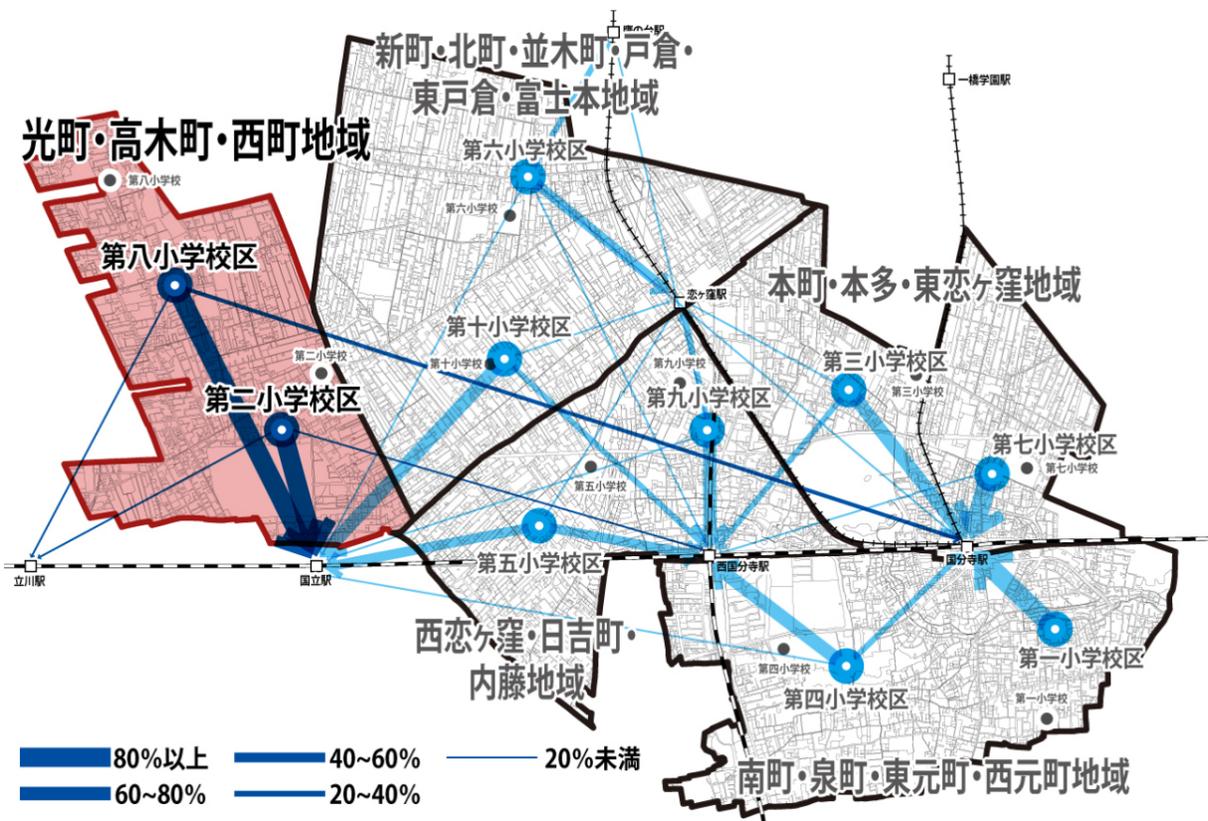


- 官公庁施設
- 教育文化施設
- 厚生医療施設
- 供給処理施設
- 事務所建築物
- 専用商業施設
- 住商併用建物
- 宿泊・遊興施設
- スポーツ・興行施設
- 独立住宅
- 集合住宅
- 専用工場・作業場
- 住居併用工場
- 倉庫・運輸関係施設
- 屋外利用地・仮設建物
- 公園・運動場等
- 未建築宅地・未利用地等
- 道路
- 鉄道・港湾等
- 農林漁業施設
- 農地(田)
- 農地(畑)
- 農地(果樹園)
- 採草放牧地
- 水面・河川・水路
- 森林
- 原野
- その他

2. 市民意識調査結果

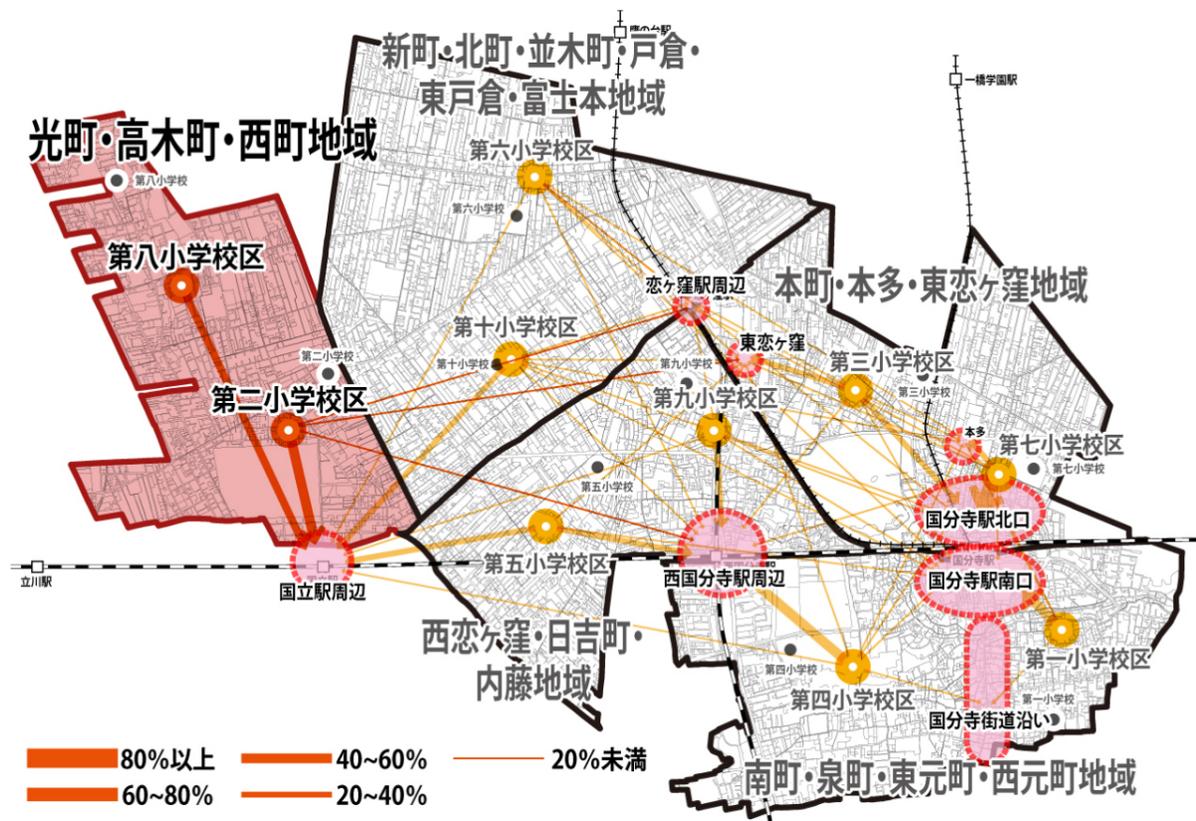
通勤時の駅利用状況

○本地域の通勤・通学に利用されている駅は、第二小学校区、第八小学校区ともに、国立駅が8割を超えています。



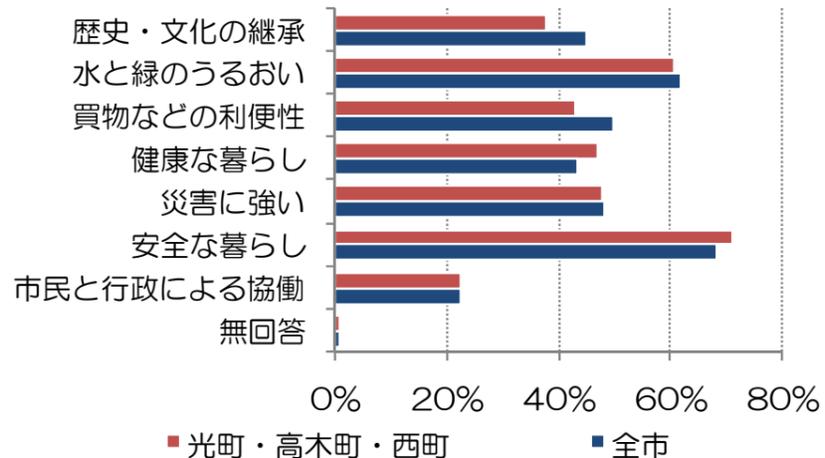
日常的な買い物先の状況

○本地域で日常的な買い物先は、第二小学校区、第八小学校区ともに国立駅周辺が他の場所よりも多い傾向にあります。



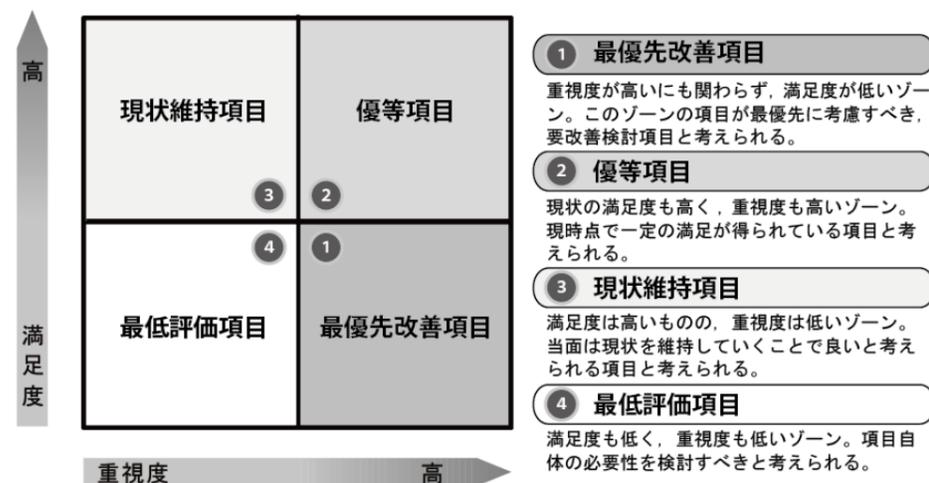
目指すまちのすがたとして重視すべきキーワード

○重視すべきキーワードは、「安全な暮らし」、「水と緑のうるおい」が上位の項目です。
○全市と比較すると、同様の傾向を示しているものの、「歴史・文化の継承」、「買物などの利便性」は全市の割合よりも低い傾向にあります。



満足度・重視度調査結果の見方（次頁）

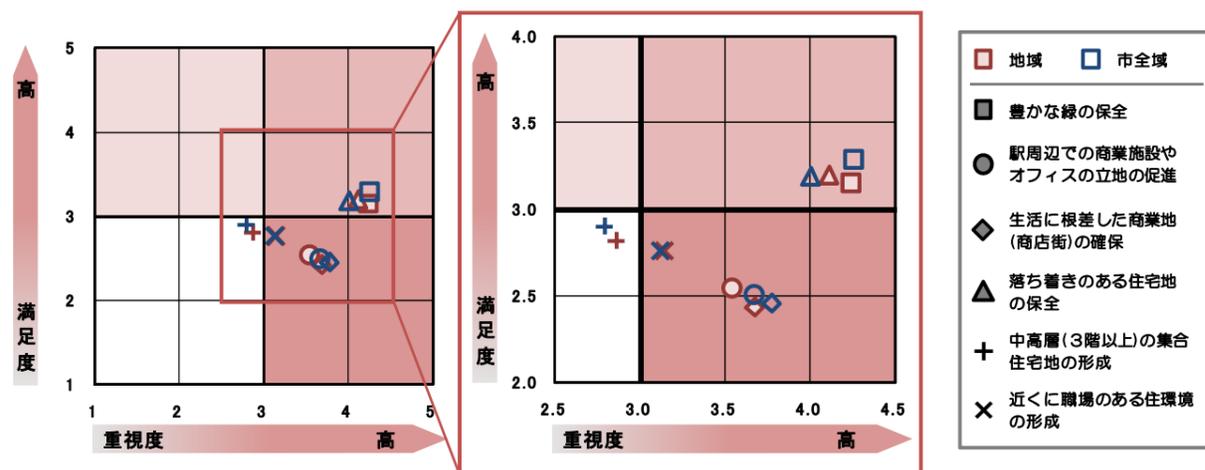
○次頁で整理している各分野のまちづくりに対する満足度・重視度調査では、それらの結果を掛け合わせることで、改善点の抽出を行ない、改善施策立案・優先順位付けのための分析を実施しています。



分野別まちづくりの満足度・重視度

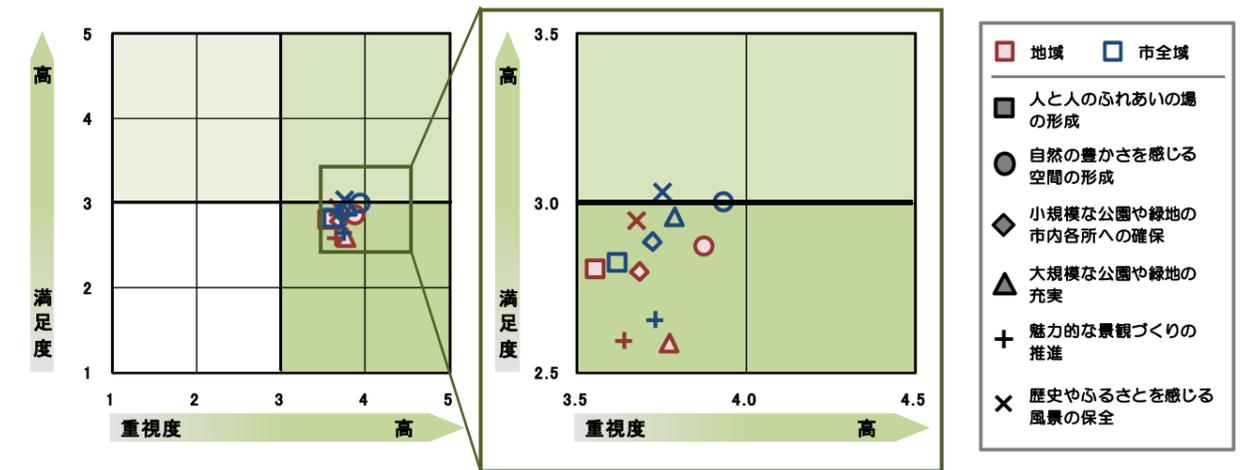
土地利用

○本地域では、「近くに職場のある住環境の形成」、「駅周辺での商業施設やオフィスの立地の促進」、「生活に根差した商業地（商店街）の確保」が最優先改善項目です。
○重視度が最も高いのは、「豊かな緑の保全」、次いで「落ち着いた住宅地の保全」、「生活に根差した商業地（商店街）の確保」という順です。



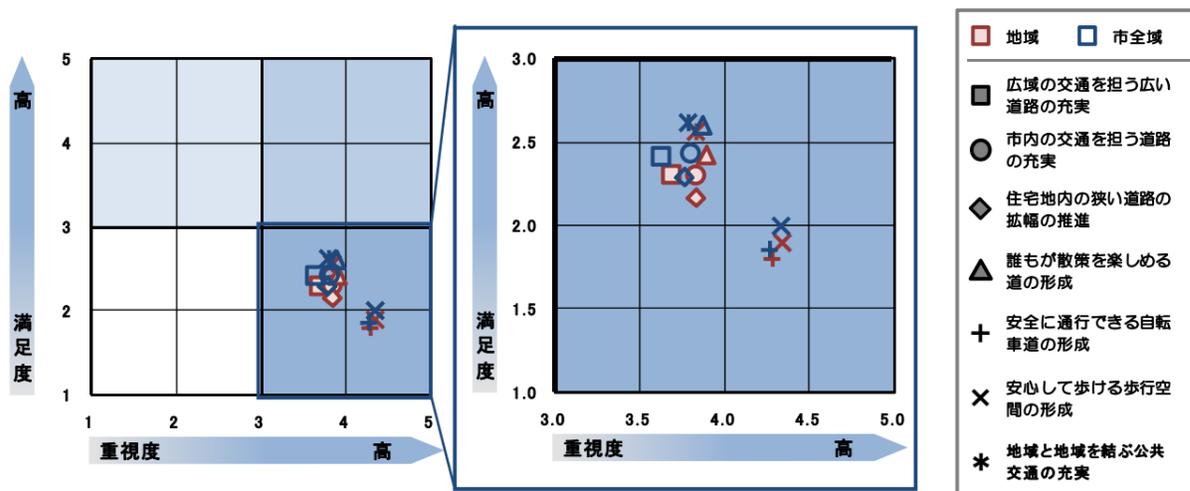
緑・景観形成

○本地域では、全項目が最優先改善項目です。
○重視度が最も高いのは、「自然の豊かさを感じる空間の形成」、次いで「大規模な公園や緑地の充実」となっており、更に「歴史やふるさとを感じる風景の保全」、「小規模な公園や緑地の市内各所への確保」が同じ値で続いています。



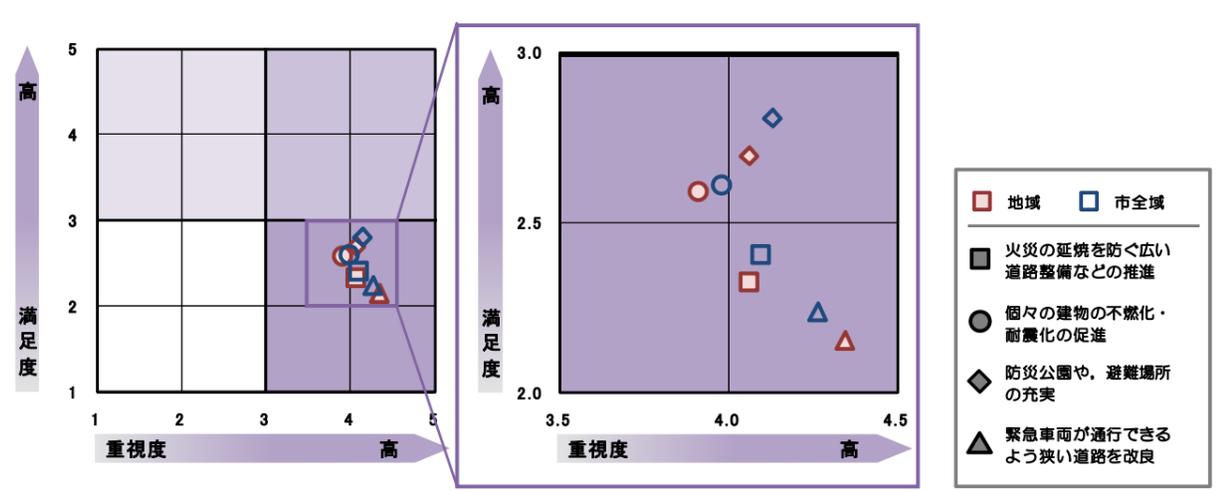
道路・交通基盤

○本地域では、全項目が最優先改善項目です。
○重視度が最も高いのは、「安心して歩ける歩行空間の形成」、次いで「安全に通行できる自転車道の形成」、「誰もが散策を楽しめる道の形成」という順です。



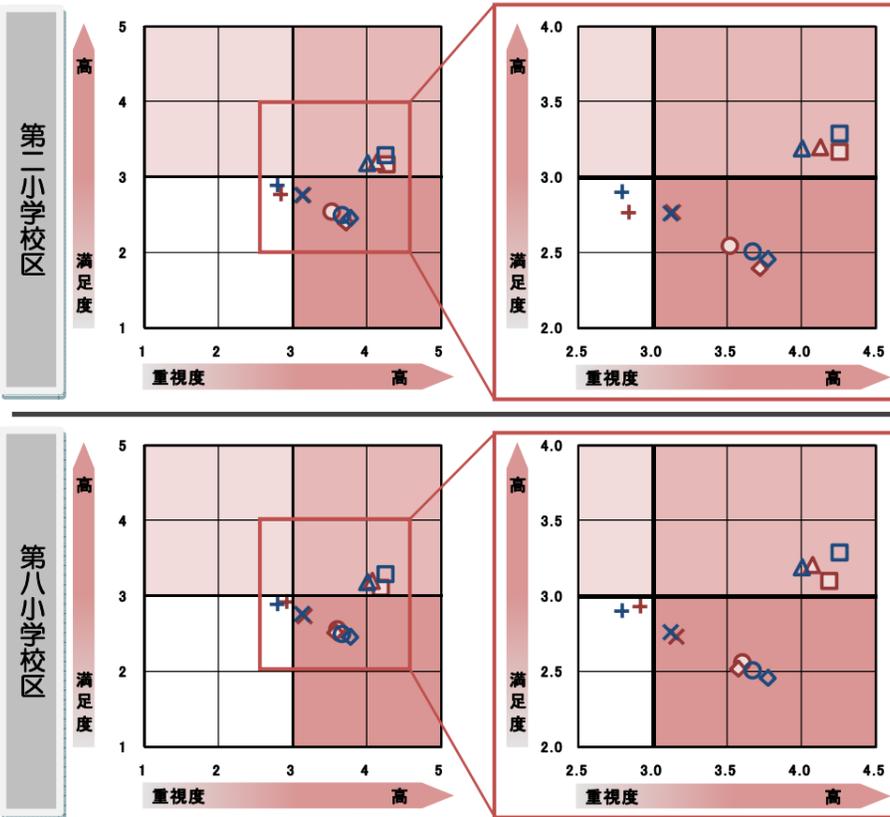
安全・安心

○本地域では、全項目が最優先改善項目です。
○重視度が最も高いのは、「緊急車両が通行できるよう狭い道路を改良」、次いで「火災の延焼を防ぐ広い道路整備などの推進」、「防災公園や、避難場所の充実」という順です。



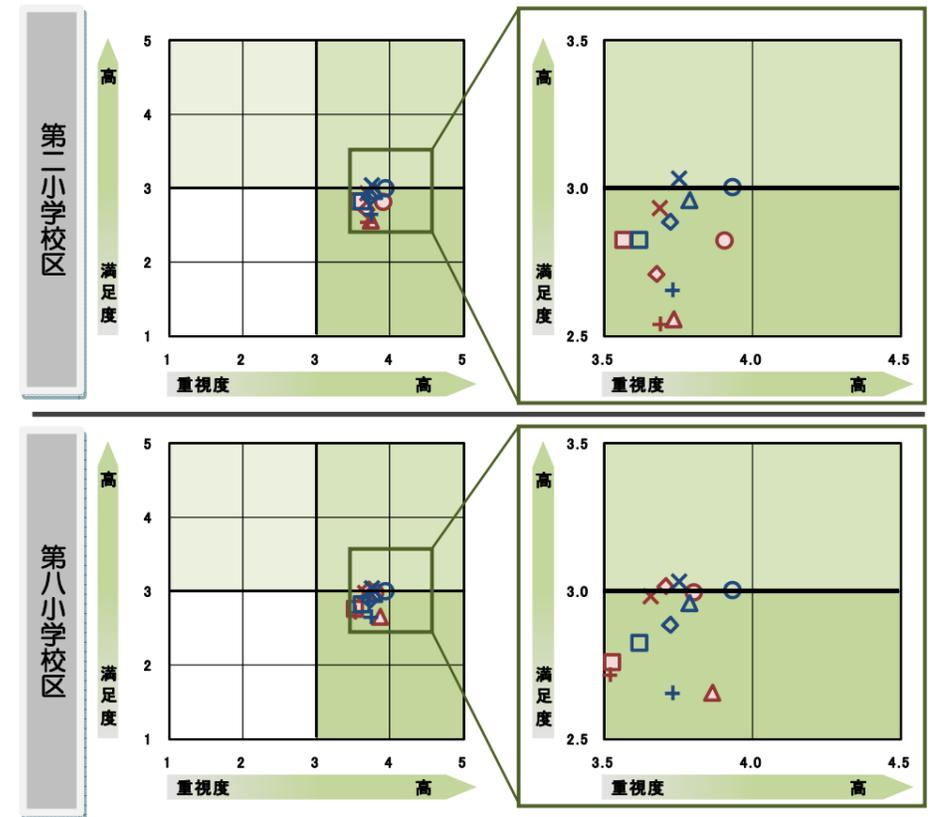
土地利用

- 豊かな緑の保全
- 駅周辺での商業施設やオフィスの立地の促進
- ◆ 生活に根差した商業地(商店街)の確保
- ▲ 落ち着いたある住宅地の保全
- +
- ×



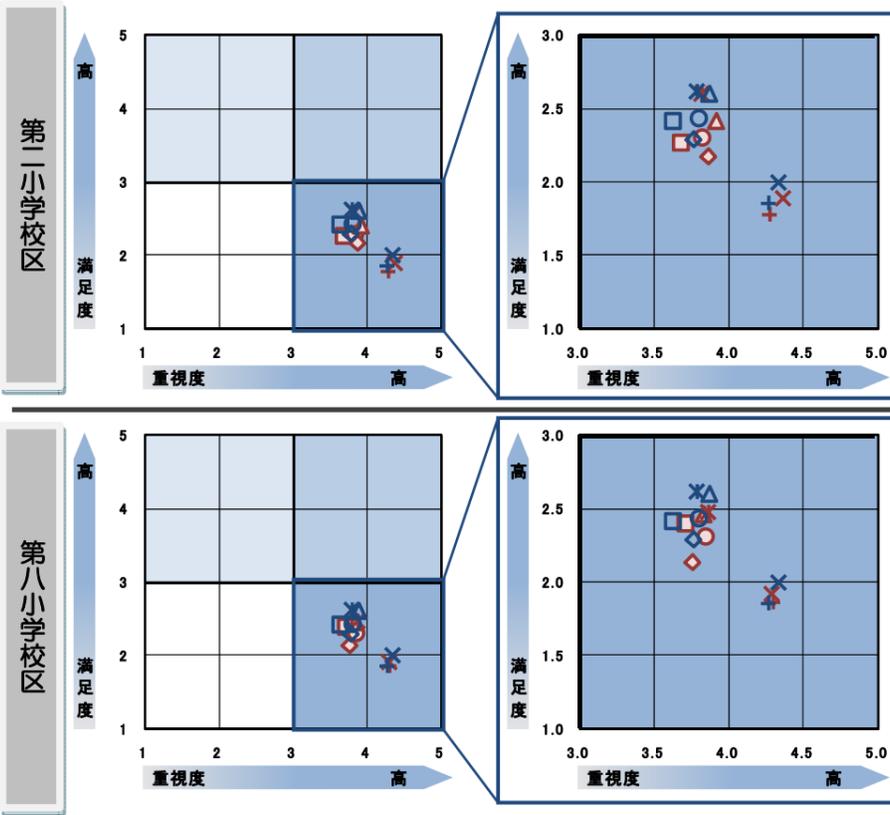
緑・景観形成

- 人と人のふれあいの場の形成
- 自然の豊かさを感じる空間の形成
- ◆ 小規模な公園や緑地の市内各所への確保
- ▲ 大規模な公園や緑地の充実
- +
- ×



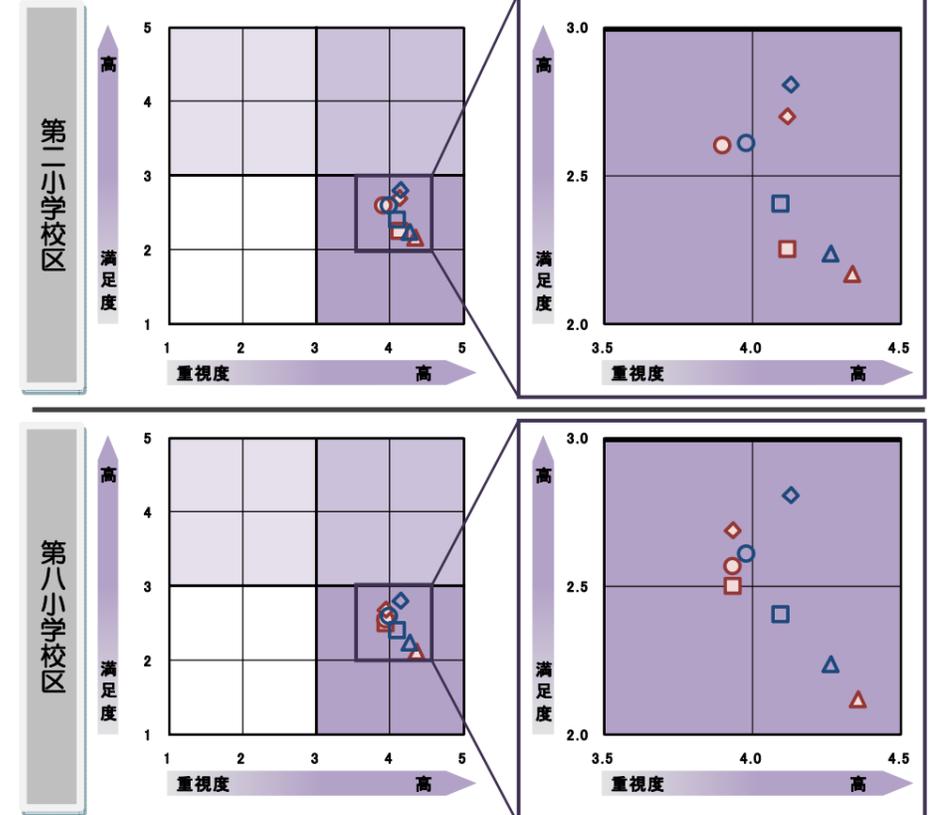
道路・交通基盤

- 広域の交通を担う広い道路の充実
- 市内の交通を担う道路の充実
- ◆ 住宅地内の狭い道路の拡幅の推進
- ▲ 誰もが散策を楽しめる道の形成
- +
- ×
- *



安全・安心

- 火災の延焼を防ぐ広い道路整備などの推進
- 個々の建物の不燃化・耐震化の促進
- ◆ 防災公園や、避難場所の充実
- ▲ 緊急車両が通行できるような狭い道路を改良



3. 地域の課題と考えられるまちづくりの方向性

土地利用に関する課題と考えられるまちづくりの方向性

市民意識調査において、重視度が高い上位の項目を対象に整理

『豊かな緑の保全』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (4.24/市平均 4.26) 満足度 (3.15/市平均 3.29) 自由回答では、「屋敷林を保存して欲しい」、「国分寺市は緑が重要」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1種低層住居専用地域^{※1}の全域にわたり、生産緑地^{※2}が集約して分布しています。 生産緑地は、緑豊かな住宅地を形成する重要な要素です。 生産緑地は、宅地転用で年々減少傾向にあります。

考察

・集約して分布する生産緑地は、本地域の緑を構成する要素であり「豊かな緑の保全」が求められていますが、**今後の買取申請を行うことが可能となる時期^{※2}をきっかけに敷地が分割され、宅地開発による小規模宅地が発生し、緑が減少する可能性**があります。

・このため、**緑豊かでゆとりある住環境を維持するための取り組みが必要**です。

『落ち着いたきのある住宅地の保全』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (4.11/市平均 4.00) 満足度 (3.20/市平均 3.19) 自由回答では、「ゆったりと暮らせる住宅地が重要」、「静かな住環境に恵まれている」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1種低層住居専用地域の戸建住宅は8.5割を超え、落ち着いたきある住環境を形成しています。 市内の住宅の内、新耐震基準制定（昭和56年）より前に建築された住宅は約2割と耐震性に問題があります。

考察

・「落ち着いたきのある住宅地の保全」に加え、防災の視点から「個々の建物の不燃化・耐震化の促進」が求められていますが、第1種低層住居専用地域内には**古く、耐火性の低い建物が多く分布しており、地震による倒壊、火災延焼による被害の拡大が懸念**されます。

・このため、**落ち着いたきとゆとりある住環境を維持しつつ、災害に強い建物への更新を促進することが必要**です。

『生活に根差した商業地(商店街)の確保』

『駅周辺での商業施設やオフィスの立地の促進』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
【生活に根差した商業地(商店街)の確保】 <ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.67/市平均 3.77) 満足度 (2.43/市平均 2.46) 【駅周辺での商業施設やオフィスの立地の促進】 <ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.55/市平均 3.67) 満足度 (2.55/市平均 2.51) 自由回答では、「ふれあいの場となる商店街にして欲しい」、「近所にお店がない」、「国分寺駅や西国分寺駅と比べて国立駅北口の利便性が低い」という意見が見られま 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の商業店舗数は年々減少傾向にあります。 現行の都市マスタープランにおいては国立駅周辺は日常生活の利便性を高める「生活拠点」に位置付けるも、まちづくりに関連する計画は未策定です。

考察

・「生活に根差した商業地の確保」に加え、「駅周辺での商業施設やオフィスの立地の促進」も求められていますが、その意向の背景は国分寺駅周辺や西国分寺駅周辺などに比べて、国立駅周辺地区でのまちづくりがあまり進んでいないことが要因として考えられます。

・このため、**本地域では、生活拠点として位置付けている国立駅周辺でのまちづくりを進め、生活の利便性を高める商業地としていくことが必要**です。

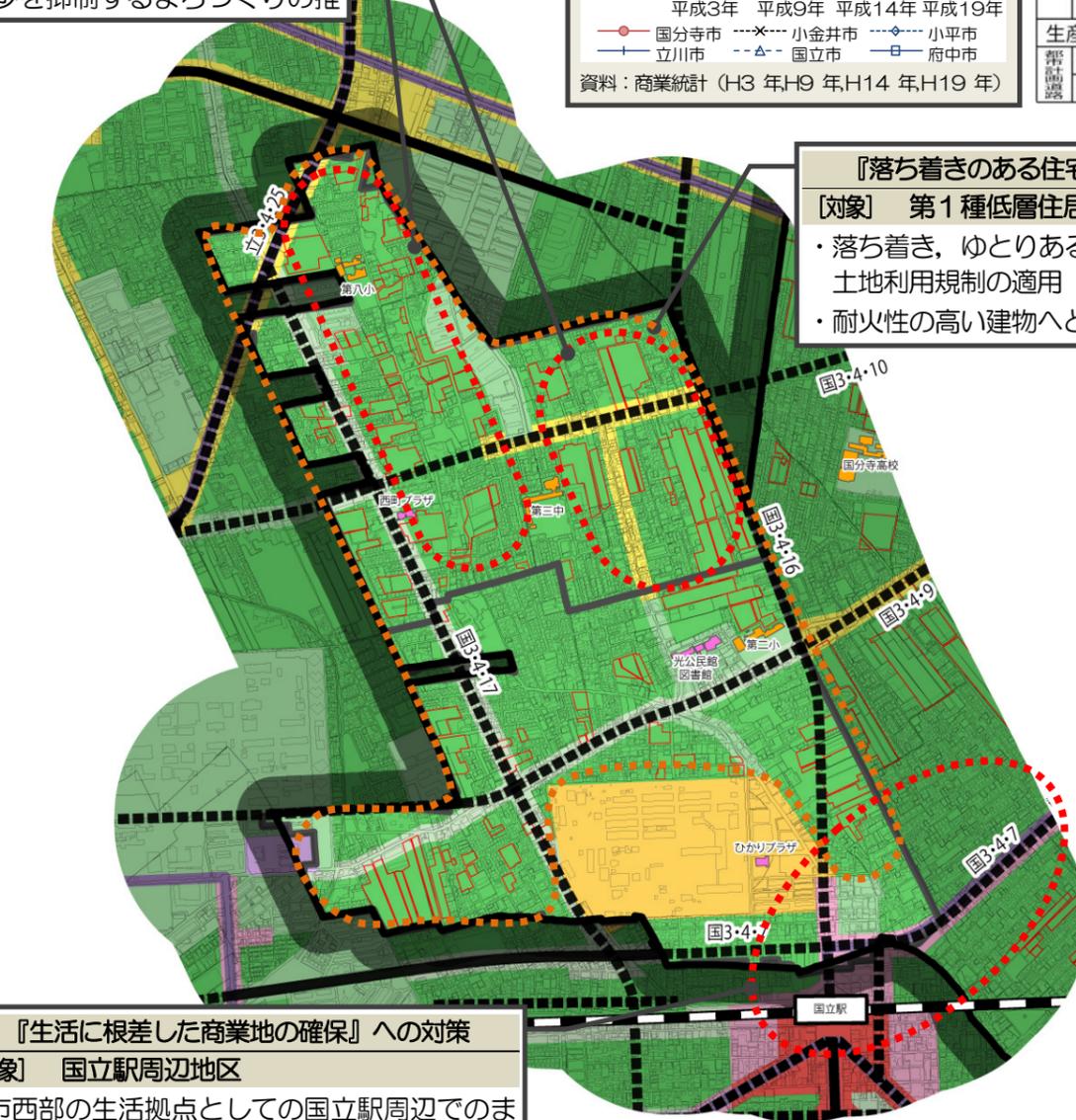
考えられるまちづくりの方向性

『豊かな緑の保全』への対策

- 【対象】 生産緑地がまとまって分布するエリア**
- ゆとりある住環境を維持するための土地の細分化の抑制
 - 農地や緑の減少を抑制するまちづくりの推

『落ち着いたきのある住宅地の保全』への対策

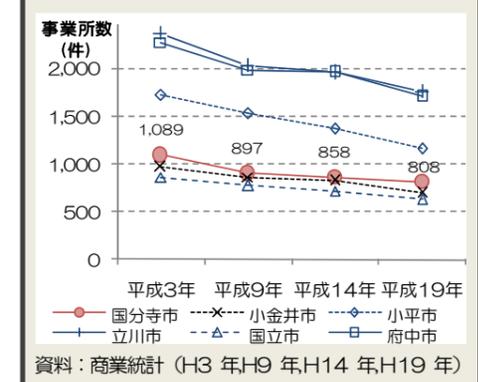
- 【対象】 第1種低層住居専用地域指定地区**
- 落ち着いたき、ゆとりある住環境への更新を促す土地利用規制の適用
 - 耐火性の高い建物へと建替の促進



『生活に根差した商業地の確保』への対策

- 【対象】 国立駅周辺地区**
- 市西部の生活拠点としての国立駅周辺でのまちづくりの推進
 - 周辺の都市計画道路沿道における市民生活を利便性・快適性を向上させるまちづくりの推

参考：本市と団隣市の卸売業・小売業事業所の推移



凡例	
第1種低層住居専用地域	■
第2種低層住居専用地域	■
第1種中高層住居専用地域	■
第2種中高層住居専用地域	■
第1種住居地域	■
第2種住居地域	■
準住居地域	■
近隣商業地域	■
商業地域	■
準工業地域	■
工業地域	■
生産緑地	■
都市計画道路(整備済)	—
都市計画道路(未整備)	----

※1：第1種低層住居専用地域とは、市街地の土地利用の方向性を定める用途地域の一つで、低層住宅に係る良好な住居の環境を保護するため定める地域。
 ※2：生産緑地とは、良好な都市環境の形成をはかるため、500㎡以上の農地で、農業と調和した都市環境の保全など良好な生活環境の確保に相当の効用があり、かつ、公共施設などの土地として適している一団の区域を指定している。市内の生産緑地の多くは新制度となった平成4年に指定され、指定から30年を迎える平成34年には、所有者は市に対して買取の申請を行うことが可能となります。

道路・交通基盤に関する課題と考えられるまちづくりの方向性

『安心して歩ける歩行空間の形成』『誰もが散策を楽しめる道の形成』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<p>【安心して歩ける歩行空間の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重視度 (4.34/市平均 4.34) ・満足度 (1.90/市平均 2.00) <p>【誰もが散策を楽しめる道の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重視度 (3.89/市平均 3.87) ・満足度 (2.43/市平均 2.60) ・自由回答では、「子どもが安全に歩けるよう歩道を整備して欲しい」、「歩道の確保が何よりも優先」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の一部に都道が2路線あり、歩道も設置されていますが、狭隘となっています。 ・幹線道路(都市計画道路)の整備は進んでおらず、<u>歩行者が安全に通行できる歩道が十分ではありません。</u>

考察

- ・「安心して歩ける歩行空間の形成」が求められるものの、既設道路の幅員は狭隘で、安全に安心して歩くことのできる道路が十分にありません。
- ・このため、都市計画道路の整備によるゆとりある歩道の設置が必要です。また、「誰もが散策を楽しめる道の形成」も求められ、崖線がある本地域では、都市計画道路だけでなく崖線の緑を活用した散策方法等の検討も必要です。

『安全に通行できる自転車道の形成』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> ・重視度 (4.28/市平均 4.27) ・満足度 (1.81/市平均 1.86) ・自由回答では、「歩道と自転車道の分離」、「道路が狭く、自転車で通るのが怖い」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の一部に都道が2路線あり、歩道も設置されていますが、狭隘となっています。 ・本地域では、幹線道路(都市計画道路)の整備は進んでおらず、<u>自転車安全に通行できる空間は十分ではありません。</u>

考察

- ・「自転車の安全な通行路の確保」が求められていますが、既設道路の幅員は十分ではなく、自転車通行帯を確保することは困難です。
- ・このため、未整備都市計画道路の整備を念頭に自転車ネットワークの形成、道路幅員構成の再配分について検討することが必要です。

『市内の交通を担う道路の充実』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> ・重視度 (3.83/市平均 3.80) ・満足度 (2.31/市平均 2.44) ・自由回答では、「都市計画道路の推進」、「未整備区間の整備の目的を明確にして欲しい」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な市内交通を担う道路として、地区内の一部に都道が2路線あります。 ・都市計画道路は、いずれの路線も未整備です。

考察

- ・本地域の都市計画道路は、いずれの路線も未整備であり、「都市計画道路の推進」、「未整備区間の整備の目的を明確にして欲しい」といった意見が見られます。
- ・このため、地区内において、隣接市や隣接地域と接続し、市内の交通を担う都市計画道路の整備への取り組みが必要です。

『住宅地内の狭い道路の拡幅の推進』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> ・重視度 (3.83/市平均 3.77) ・満足度 (2.16/市平均 2.29) ・自由回答では、「住宅地内の道路が狭い」、「畑や空地を活用した道路の拡幅」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地内の道路は、農道であった道为基础としているため、<u>6m未満の幅員の狭い道路が約7割を占めています。</u>

考察

- ・道路の歩車分離が求められているものの、地域内は宅地化が進んでいるエリアも多く、住宅地内で路線全体を対象とした道路拡幅は困難です。このため、幹線道路となる都市計画道路の整備、長期的視野に立った住宅地内での段階的な道路拡幅を進めていくことが必要です。

市民意識調査において、重視度が高い上位の項目を対象に整理

考えられるまちづくりの方向性

『安心して歩ける歩行空間の形成』への対策
 [対象] 主要幹線道路に該当する都市計画道路
 ・幹線道路となる都市計画道路の整備の推進によるゆとりある歩行空間の確保

『安全に通行できる自転車道の形成』への対策
 [対象] 都市計画道路(全般)
 ・自転車ネットワークの形成に向けた検討の推進と、対象となる都市計画道路の整備の推進

『安全に通行できる自転車道の形成』への対策
 [対象] 国3・4・10号線
 国3・4・17号線
 ・主要幹線道路となる都市計画道路の整備の推進

『誰もが散策を楽しめる道の形成』への対策
 [対象] 崖線の緑
 ・崖線の緑を活用した散策方法等の検討

『住宅地内の狭い道路の拡幅の推進』への対策
 [対象] 住宅地内の道路
 ・住宅地内での壁面後退による道路幅員の確保の推進

『市内の交通を担う道路の充実』への対策
 [対象] 未整備都市計画道路
 ・都市計画道路の整備の推進

参考：本地域の道路幅員別延長割合

都道	—	
都市計画道路	主要幹線道路	—
	整備済	—
	未整備	---
地区幹線道路	整備済	—
	未整備	---
第三次事業化計画(優先整備路線)	↔	
バス路線	一般路線バス	—
	ぶんバス	—

資料：平成24年度土地利用現況調査

『自然の豊かさを感じる空間の形成』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.88/市平均 3.93) 満足度 (2.88/市平均 3.01) 自由回答では、「緑を保全し、住環境を守る取り組みの推進」、「農地が減り、住宅に変わっている」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域北端から、地域中央を横断して国立駅方面に向かって、本市の特徴的な緑である崖線が連続して分布しています。 地域北部に生産緑地が多く分布しています。この生産緑地は、宅地転用で年々減少傾向にあります。

考察

- 生産緑地と住宅が一体となった景観、崖線の緑が連続する景観は、本市の景観特性のひとつとなっており、「自然の豊かさを感じる空間の形成」に大きく寄与しています。
- このため、住宅地における**生産緑地については、減少を抑制し、崖線の緑は適切に保全し、豊かな緑がある景観を維持していくことが必要**です。

『大規模な公園や緑地の充実』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.77/市平均 3.79) 満足度 (2.59/市平均 2.96) 自由回答では、「公園や芝生広場等の整備」、「小さな公園が増えてきているが、大きい公園が欲しい」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園*1の内、大規模な公園として中藤公園がありますが未整備です。 本地域には、まとまりある緑として、鉄道研究所内に緑地があります。

考察

- 「大規模な公園や緑地の充実」が求められていますが、地区内の都市計画公園である**中藤公園は未整備**です。
- 観音寺の敷地を都市計画公園として計画決定している中藤公園は未整備ですが、**現在の良好な社寺林の保全・活用に向けた検討が必要**です。

『歴史やふるさとを感じる風景の保全』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.68/市平均 3.75) 満足度 (2.80/市平均 3.03) 自由回答では、「子どもたちが歴史・文化を誇れるまちづくり」、「歴史を楽しめる街にしたい」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 崖線は、昔ながらの自然資源であり、地区の歴史的景観を演出する重要な要素となっています。

考察

- 「歴史やふるさとを感じる風景の保全」が求められている中で、**崖線の緑は昔ながらの自然資源として、地区の歴史的景観を演出する重要な要素**です。
- このため、崖線の緑を適切に保全しながら、**自然と昔ながらの雰囲気や趣を堪能できる崖線の活用方法の検討が必要**です。

『小規模な公園や緑地の市内各所への確保』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.68/市平均 3.72) 満足度 (2.95/市平均 2.89) 自由回答では、「公園から遊具が減って、子供が遊べない」、「休日の小学校の校庭を一般開放して欲しい」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 都市公園の内、小規模な公園として弁天公園がありますが未整備です。 現状では、本地域の都市計画公園は未整備で全域が公園誘致圏空白地域*2となっています。 都市公園以外の小規模公園・緑地が存在しますが、その土地は借地である場合が多く、恒久性は担保されていません。

考察

- 「小規模な公園や緑地の市内各所への確保」が求められていますが、**都市公園である弁天公園は未整備**であり、かつ当該地は弁天八幡宮の境内地であるため、将来における整備の可能性は不透明です。また、地区北部には生産緑地がまとまって分布しています。
- このため、**弁天公園の整備の可能性について検討が必要**です。また、地域の全域が公園誘致圏空白地域であるため、**生産緑地や既存の小規模緑地を適切に保全・活用しつつ、公園の配置について検討し、住民ニーズを踏まえた整備を推進することが必要**です。

考えられるまちづくりの方向性

凡例	
公園・緑地	都市計画公園
	整備済(概ね整備(8割以上)を含む)
	未整備(一部整備(8割未満)を含む)
公園誘致圏	その他の公園緑地(都市計画基礎調査による)
公園誘致圏	整備済(一部整備を含む)
	未整備
	農地(都市計画基礎調査による)
	生産緑地地区
	文化財等
	埋蔵文化財等



『自然の豊かさを感じる空間の形成』への対策

対象 生産緑地地区

- 農地の減少を抑制する取り組みを進め、市の特色ある自然の豊かさを感じることのできる景観の保全

『自然の豊かさを感じる空間の形成』への対策

対象 崖線

- 崖線の一定のまとまりが見られる箇所の緑地指定などにより、崖線の適切な保全を進め、市の特色ある自然の豊かさを感じることのできる景観の保全

『歴史やふるさとを感じる風景の保全』への対策

対象 崖線

- 崖線の緑の保全と昔ながらの雰囲気や趣を堪能できる崖線の活用方法の検討

『大規模な公園や緑地の充実』への対策

対象 鉄道研究所内緑地

- 事業者と連携しつつ樹林の適切な管理・保全

『大規模な公園や緑地の充実』への対策

対象 未整備都市計画公園(近隣公園)

- 実態に即した社寺林の保全・活用施策の検討

『小規模な公園や緑地の市内各所への確保』への対策

対象 未整備都市計画公園(街区公園)

- 弁天公園の整備の可能性について検討

『小規模な公園や緑地の市内各所への確保』への対策

対象 公園空白地域

- 平兵衛樹林地・はけ通り樹林などの既存緑地の適切な保全と、既存の小規模公園、緑地、生産緑地などを活用した都市計画公園の再配置の検討



※1：都市公園とは、都市公園法に基づき地方公共団体または国が設置する公園・緑地。
 ※2：公園誘致圏空白地域とは、公園の規模に応じて設定されている各公園が対象とする誘致圏の範囲の線を引いた際、どの公園誘致圏にも当てはまらない地域。

『緊急車両が通行できるよう狭い道路を改良』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (4.34/市平均 4.26) 満足度 (2.15/市平均 2.24) 自由回答では、直接的な意見ではないものの「住宅地内の道路が狭い」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区の北東部の住宅が密集する区域は、消火活動がやや困難(ランク3)となっています。 高木町1丁目は、消火活動がやや困難な地区と、木造建築物の割合がやや高い地区が重なっています。

考察

木造の戸建て住宅が密集し、かつ住宅地内の道路幅員も十分ではないため、震災時の消火活動がやや困難とされており、災害発生時の消火活動や救急救命活動に支障をきたす可能性があります。こうした地域の実情を背景に「緊急車両が通行できるよう狭い道路を改良」を強く求められています。このため、主な住宅内道路を対象に緊急車両の通行を想定した道路整備が必要です。

『火災の延焼を防ぐ広い道路整備などの推進』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (4.06/市平均 4.09) 満足度 (2.33/市平均 2.41) 自由回答では、「災害に備えて都市計画道路を早急に整備」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の東京都の緊急輸送道路は、地区北西の一部を通る立川通りと地区南東の一部を通る市役所通りです。

考察

「火災の延焼を防ぐ広い道路の整備」が求められていますが、都市計画道路の整備が進んでいないことが背景にあります。特に、地区防災センター近くの道路は狭く道路閉塞の可能性がります。このため、防災関連施設に近接する都市計画道路の優先的整備が必要です。

『防災公園や、避難場所の充実』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (4.06/市平均 4.13) 満足度 (2.70/市平均 2.81) 自由回答では、「学校以外の2次避難施設として文化施設の整備」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区内の全ての市立小・中学校は、地区防災センターに位置づけています。 地区南部の国立駅周辺は、隣接市の避難場所があります。

考察

市立小・中学校を地区防災センターに位置づけていますが、隣接する道路はいずれも幅員が狭くなっています。一方、「防災公園や避難場所の充実」が求められていますが、地区の南部(国立駅周辺以外)は地区防災センター・避難場所は地区内で比較的均等に確保されています。このため、対策災害対策本部や地区防災センター・避難場所が有効に機能するよう、施設や周辺道路での対策が必要です。また、周辺に近隣市の避難場所が位置するエリアにおいては、それらを活用できるように近隣市と調整し、連携していくことが必要です。

『個々の建物の不燃化・耐震化の促進』に関する市民意向と地域の現状

市民意向	地域の現状
<ul style="list-style-type: none"> 重視度 (3.91/市平均 3.98) 満足度 (2.59/市平均 2.61) 自由回答では、直接的な意見はないものの「木造密集地域の指定や耐震化工事への助成強化」といった意見が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> 木造建築物の割合がやや高くなっています。(市平均値より高い) 第1種低層住居専用地域の戸建住宅は8.5割を超えています。 市内の住宅の内、新耐震基準制定(昭和56年)より前に建築された住宅は約2割です。

考察

個々の建物の不燃化・耐震化が強く求められていますが、古い木造住宅は、耐震性能・耐火性能が高くない恐れがあるため、地震による倒壊、火災延焼による被害の拡大が懸念されます。このため、耐火性等の高い建物への更新を促していくことが必要です。

考えられるまちづくりの方向性

『緊急車両が通行できるよう狭い道路を改良』への対策

【対象】 木造建築物が多い地区
狭い道路が多い地区

- 主な住宅内道路の道路幅員の確保(道路拡幅、壁面後退等)など、災害に強いまちづくりの推進
- 沿道建築物における耐火性の高い建築物への更新の促進

『防災公園や、避難場所の充実』への対策

【対象】 地区防災センター

- 避難場所となる教育施設周辺街路の拡幅、周辺建築物の耐震化を推進
- 避難場所となる教育施設への誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの導入

『個々の建物の不燃化・耐震化の促進』への対策

【対象】 木造建築物が多い地区

- 耐火性の高い建築物への更新の促進

『防災公園や、避難場所の充実』への対策

【対象】 地区防災センター

- 避難場所となる教育施設周辺街路の拡幅、周辺建築物の耐震化を推進
- 避難場所となる教育施設への誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの導入

『防災公園や、避難場所の充実』への対策

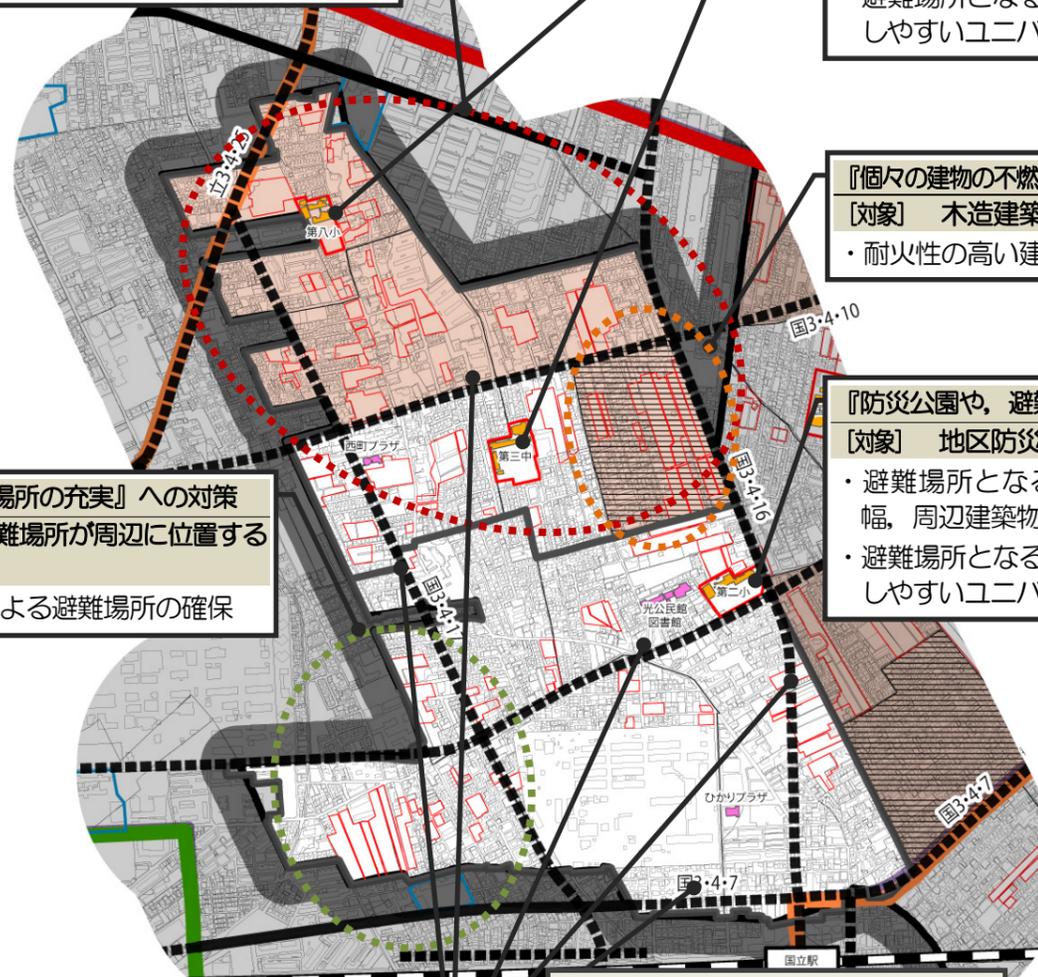
【対象】 近隣市の避難場所が周辺に位置するエリア

- 近隣市との連携による避難場所の確保

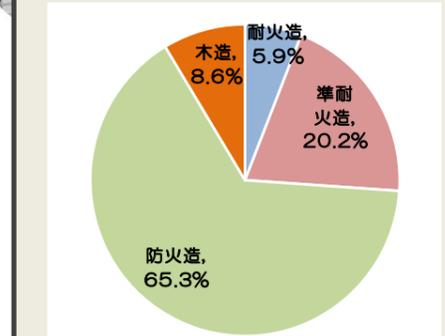
『火災の延焼を防ぐ広い道路整備などの推進』への対策

【対象】 国3・4・7号線、国3・4・9号線
国3・4・10号線、国3・4・16号線
国3・4・17号線

- 延焼遮断機能となる都市計画道路の優先的な整備の推進



参考：本地域の構造別建築物棟数の割合



資料：平成24年度土地利用現況調査

凡例	
震災時の消火活動困難度がやや高い地区	
木造建物が多い地区(10%)	
地区防災センター	
広域避難場所	
緊急避難場所	
隣接市の避難場所	
緊急輸送道路(1次)	
緊急輸送道路(2次)	
緊急輸送道路(3次)	
整備済	
未整備	